

令和4年10月31日
(2022年)

保護者の皆さま

吹田市立青山台小学校
校長 熊野 厚博

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として、課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

(1) 国語《概要》

◎国語【主として『知識及び技能』に関する問題】

平均正答率は全国値を上回っている。無回答率は低い。

◎国語【主として『思考力・判断力・表現力』に関する問題】

平均正答率は全国値とほぼ同じであるが、書くことの分野には課題がある。

《各領域における成果と課題》成果○ 課題△

話すこと・聞くこと

○全国の平均正答率をとほぼ同じである。

△「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや、自分が聞きたいことの内容を捉える」ことに課題がある。

書くこと

△全国の平均正答率を下回っている。

△「文書の良さを見つけ、具体的に書く」ことに課題がある。また「文章中の言葉を取り上げて60字以上100字以内にまとめて書く」ことに課題がある。

読むこと

○全国の平均正答率を上回っている。

△「人物像や物語の全体像を具体的に想像すること」に課題がある。

言葉の特徴や使い方に関する事項

○全国の平均正答率を上回っている。

△同音異義語は理解できているが、聞き手の誤解を招かないようにしていることを捉えることに課題が

ある。

我が国の言語文化に関する事項

○全国の平均正答率を上回っている。

《国語科における今後の指導改善点》

◇国語科に留まらず、自分の考えや感想をその根拠を明確にしながらか条件に合うように書く学習を多く取り入れる。

◇目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読むことができるようにする。さらに主題にせまり自分の考えとの共通点や相違点を見付け、内容理解を深め、自分の考えも深めるようにする。

◇文章量の多い課題に慣れさせ、設問課題を最後まで読み、何を問われているのかを自身で整理できるようにする。

◇文節の働き(主語・述語・修飾語など)のある課題に繰り返し取り組む必要がある。特に3年生で学習する修飾語の意味の学習を徹底的に行う。

(2) 算数《概要》

◎算数【主として『知識・技能』に関する問題】

平均正答率は全国値を上回っている。無回答率は低い。

◎算数【主として『思考・判断・表現』に関する問題】

平均正答率は全国値をやや上回っている。無回答率は低い。

《各領域における成果と課題》成果○課題△

数と計算

○平均正答率は全国値を上回っている。

△「示された場面を解釈し除法で求めることができる理由を説明できる」ことに課題がある。

△「示された場面において数の処理の仕方を考察できる」ことに課題がある。

図形

○平均正答率は、全国値をやや上回っている。

△「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質・構成について理解している」に課題がある。

変化と関係

○平均正答率は全国値を上回っている。

△「示された場面のように、数量が変わっても割合が変わらないことを理解している」に課題が見られる。

データの活用

○平均正答率は全国値をやや上回っている。

△「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータを捉え考察できる」に課題がある。

《算数科における今後の指導改善点》

◇基礎的な計算は概ねできているが、初歩的な位のミスや計算ミスが見られるため授業や宿題で引き続き練習していく。

◇自分の考えを図や言葉、式に表す力が弱く、そのまま無回答にする児童も多いため、普段の授業から自分の考えを図や言葉で少しでも記述できるように指導していく。

◇無回答率の高い設問はいずれも、長い文章から答えを導くために必要な数値を選択し、式や言葉で表すことを求められているものである。普段より、算数科に留まらず、文章をしっかりと読む習慣や、目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにすることが大切である。

◇図形を構成する要素やそれらの関係に着目して、作図の仕方を筋道を立てて考えることができるように指導していく。

- 「自分で計画的に学習している」と答えた割合は、全国値を上回っている。
- 「自然の中で遊ぶことや自然観察が好き」と答えた児童は全国値を上回っている。
- 「普段1日あたりの読書時間が1時間以上」と答えた児童が全国値を上回っている。
- △「失敗を恐れなくて挑戦しますか？」について肯定的な回答の割合が、全国値を下回っている。
- △「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方」について、家の人と約束をしたことを「きちんと守っている」と答えた児童は全国値を下回っている。

(2) [学校生活のこと] プラス面○マイナス面△

- 「算数や国語や理科の勉強が好き」と答えた割合は、全国値を上回っている。
- 「学習した内容についてわかった点やわからなかった点を見直し、次の学習に繋げている」の問いでは肯定的回答が、全国値より上回っている。
- 「算数の問題の解き方がわからない時は、あきらめずに色々な方法で考えますか」と感じている児童は、全国値を上回っている。
- 「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、自分の考えを広げたりしていますか」という問いに対して肯定的な回答をしている児童が多い。
- 「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか？」という問いに対して肯定的な回答をしている児童は、全国値を上回っている。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広めたりすることができていますか」という肯定的な回答が、全国値を上回っている。
- △「国語や理科で学習したことは、将来社会に出た時に役に立つと思いますか」という問いに対して肯定的な回答をしている児童は全国値をやや下回っている。
- △「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して肯定的な回答をしている児童は全国値をやや下回っている。

3 課題及び今後の取り組み

- ◇本校の児童は、国語・算数については、全国平均と比べおおむね満足できる学力ではあるが、今学んでいることが将来につながるということが理解できていない児童が一定数いる。今後も、児童の学習意欲を大切にしながら、各教科の基礎学力の定着を目指す。また習熟度別指導等を充実させ、児童が主体的に学習でき、友達と学びあう良さをさらに実感できるよう授業改善を行っていく。
- ◇理科の学力については課題が見られる結果となった。専門性を持った教員による、予想・実験・結果・考察の学習形態を充実させ、生活経験とも絡めて知識の定着を図る授業改善を行っていく。
- ◇生活面においては、様々な教育活動を通して、児童それぞれの良さが発揮できるような役割や場を設けることにより、責任感を育み、自己肯定感・自己有用感を高めていく。
- ◇「いじめがいけないことである」と答えた児童の割合は多いのだが、そうだと思わない児童も少数いるということを懸念し、児童全員がいけないことという共通認識を持つよう指導する必要がある。
- ◇「自尊感情」が高い児童や「将来の夢や目標」を持つ児童が多いことがわかる。これらは、学校生活を送るうえで何かをやるという意欲の源であり、まわりの人を受け入れて良好な人間関係を築くために必要なものである。「一方で失敗を恐れずに挑戦をする」ということについては消極的な面が見られるので、学校生活においても挑戦する喜びや達成感を持たせる場面を増やしていく。
- ◇スマートフォンの普及、iPadの配付に伴う、「インターネット」の利用のルールについて、きちんと

(3) 理科《概要》

◎理科【主として『知識及び技能』に関する問題】

平均正答率は全国値をやや下回っている。無回答率は低い。

◎理科【主として『思考力・判断力・表現力』に関する問題】

平均正答率は全国値をやや下回っている。無回答率は低い。

《各領域における成果と課題》成果○課題△

エネルギー

△全国の平均正答率を下回っている。

△「光の屈折を理解する」ことに課題がある

粒子

△全国の平均正答率をやや下回っている。

△「水溶液の実験結果について、その結果の考察等まとめる力」に課題がある。

生命

△全国の平均正答率をやや下回っている。

△「実験の観察結果をまとめ考察する」ことに課題がある。

地球

△全国の平均正答率をやや下回っている。

△「夜の気温の変化についてグラフを読み取り必要な情報を読み取る」ことに課題がある。

《理科における今後の指導改善点》

- ◇実験、観察、体験活動をできるだけ多く行い、それらの結果について自分の考えを深めさせる指導の工夫を行う。
- ◇器具の操作の意味を捉え、適切な扱い方を理解させる指導を引き続き行っていく。
- ◇自然の事象、現象の変化や規則性を捉え、これまでに獲得した知識を適用する場面の保証の保障の重要性について意識させる授業をつくっていく。
- ◇理科の授業の基本である、実験の流れ、予想・実験・結果・考察の指導形態を通して、自然事象についての児童の理解を深めていく。

2 児童質問紙の結果 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

(1) [家庭生活のこと] プラス面○マイナス面△

- 「自分にはいいところがある」と答えた割合は、全国値を上回っている。
- 「将来の夢や目標」は、肯定的回答が全国値を上回っている。
- 「朝食」を食べ、毎日同じ時刻に起床できている。
- 「週末には学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」と答えた割合が全国値を上回っている。

守っていないと答える児童が一定数いる。デジタルシティズンシップ教育の考え方で、学校と家庭で連携し、正しい情報機器の使い方を子供たちに教えていく必要がある。

◇「話し合い活動」についての設問に関しては肯定的な回答をする児童が全国値を上回っている。学校生活での集団活動を今後も大切にし、児童の社会性の育成に努めていきたい。

4 家庭へのお願い

◇朝食を毎日摂取する事は習慣になっているが、「就寝時刻と起床時刻が一定ではない」児童も一定数存在している状況です。今後、スマートフォンの普及や学習による就寝時刻の不安定により、起床時刻が遅くなり、生活リズムが崩れてくることも予想されるので、児童の自立的な生活態度の確立に向けて、家庭のご協力をお願いします。

今後とも本校教育活動の推進、ならびに、児童の健全なる成長を促していくために、保護者の皆様のご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い致します。